

5 その他の事例 ～授業付き添いに関すること～

発生時の状況と経過

小学部4年担当看護師Aが注入準備に加わっていた。第3限開始時に座位保持いす乗車のために呼ばれた看護師 B が移乗介助を行い、その場を離れ担当の教室に戻った。看護師Aと一緒に注入準備をしていた看護師Cが「第3限目は児童に付き添いする時間だけど行かなくてよいのか？」と声を掛けたが返答は曖昧であった。看護師Cが気にして、小学部4年の教室を確認すると、看護師不在のまま本児が座位保持いすに乘車し授業をしていることに気付いた。

発生時の対応と処置

注入準備をしていた看護師が担当看護師 A に声をかけ、教室に向かうよう促した。

考えられる原因や背景

事前に担任と担当看護師間で1日の授業内容についての打ち合わせが行われていなかった。

担任は、児童が座位保持いすで活動するときには体調管理のために看護師が付き添っていた方がよいと、看護師が考えていたことを把握できていなかった。

業務が重なっていたため、移乗介助を行った看護師B(担当外)から、担当看護師Aへの連絡が直ぐにできなかった。

再発防止に向けた対策・改善点

- ・担任に、児童が座位保持いすに乗ると気切部からの痰が多くなり、吸引が頻回になることを説明し、朝の引き継ぎ時に1日の授業内容を担当看護師と一緒に確認することを話す。
- ・頻脈時にセルシンの効果が出にくいことがあるため、座位での授業には必ず常駐するが、それ以外の活動時にも看護師が付き添うことを周知する。
- ・週の予定を看護師が把握できるように、学級で配付している週予定を保健室にも提出してもらう。

ポイント！

- 看護師のスケジュール管理も二重チェックで確認しましょう。
- 座位保持椅子に乗っていることによる影響も共有し、多くの人で注意しましょう。